

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	専攻実技3	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	金澤法皇、末光篤		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
音楽理論の基礎をしっかりと身につける。記号の書き方、音符の長さなどの基本から、スケール、音程までは最低でもしっかりと理解し、楽譜をきっちりと読めるようにする。作曲をするにあたって必要なキーの理解、転調、セカンダリー等を実際に曲に取り入れられるようにする。また、自身の曲を書く学生は、自身の曲の譜面を書けるようにする。業界に出てからは、バンド、アンサンブル、レコーディング現場など、譜面を理解すること、譜面を手渡しすることは必須である。自らの作品を譜面化できるようにするスキルを伝授する。					
到達目標					
様々な基本用語を覚え、実際の実習で活かせるようにする。また、様々な手法を駆使して、自身のオリジナル楽曲にいかせるようにする。既存曲も例えばイントロのみ、Aメロのみといったパート単位で良いので、自身で楽曲分析を出来るようにする。業界に羽ばたいてからは、楽曲を分析する力が必須である。音楽家同士のコミュニケーションにおいても、楽曲のセクションをよく理解することが、より良い制作現場をつくる第一歩になってくる。基本となる知識も音楽的知識と共に向上させる。					
教育方法等					
授業概要	なだけ少人数制のグループで授業を進めていく。授業開始にはならず復習の小テストを行い、何度も繰り返し行う事によって、徹底して理解させる。毎回の小テストの他に、前期テスト、後期テストとあるが、合格点を取れるまで、なんどでもテストを行います。テスト前には、補講も行い、分からない項目を分からないまま受験しないような授業となっている。				
注意点	理解度の高い学生と、そうでない学生との差が大きいため、上手くそれぞれに合わせた授業内容で進めていく。理解できていない学生には別途、個人レッスンをおこない、とりこぼしのないように進めていく。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	マイナースケール		Aマイナーを中心としたナチュラルマイナースケールについて		
2回	メジャーとマイナーの関係		CメジャーAマイナーの関係の理解		
3回	ハーモニックマイナースケール		Aマイナーハーモニックスケールに関しての理解		
4回	メロディックマイナースケール		Aマイナーメロデックスケールに関しての理解		
5回	3つのスケール		マイナースケール3種類の使用方法等について理解する		
6回	マイナーのアナライズ		スケールを用いた楽曲をアナライズしていく		
7回	調性について		今一度キーを復習する		
8回	並行調		C, A mについての説明を行う		
9回	同主調、属調、下属調		近親調の説明		
10回	テスト		前期試験を見据えたテストを行う		
11回	アナライズ		セカンダリー、転調等これまでの要素がある楽曲をアナライズ		
12回	転調について		転調とは、その効果などについて理解する		
13回	実際に転調させてみる		既存曲を近親調を用いて、部分的に転調させてみる		
14回	アナライズ2		複雑な曲の楽曲分析(細かい要素があるもの)		
15回	まとめ		前期試験		